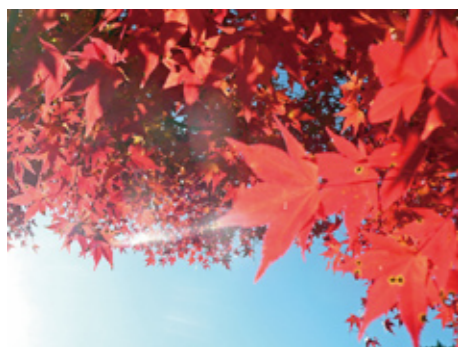




はままつ森林感謝祭 2010～浜松の森のめぐみに感謝する1日～



平成22年11月21日(日)、浜松市天竜区龍山町瀬尻のふるさと村周辺(瀬尻国有林)において静岡県西部農林事務所・浜松市と共催で「はままつ森林感謝祭2010」を開催しました。このイベントは、森林での間伐体験などを通して「森林の働き」や「森林の現状」等森林について地域の方々に知っていただくことを目的に行っているものです。今年は約120名の方々に参加していただき、午前中は森林教室と間伐体験を、午後は森林ガイドウォーク、木工体験、ベンチづくりの3つのプログラムに分かれて参加していただきました。参加者の方からは、「普段の生活の中では考えられない体験ができた」「森林の大切さや林業の大変さがわかった」「今後も間伐をする機会があればやってみたい」などの声をいただきました。

プログラム&メニュー



森林教室・間伐体験

午前中は、「やらまいか!!天竜・森林づくり講座」と題し、森林教室と間伐体験を行いました。森林教室では、森林での作業など“森を育てるサイクル”のお話や、“森林のはたらき”のお話をみなさんに聞いていただきました。

森林教室のあとは、間伐体験。木が大きく育つと隣の木同士で日光を巡る競争が起きるため成長が阻害されてしまいます。そのため、木を抜き伐りする作業が必要で、この作業のことを“間伐”といいます。(約25年育ったら行い、



その後約10年ごとに1,2回行います。)今回は27年生のヒノキ林の間伐を皆さんに体験していただきました。間伐体験はチェーンソーを用いて行う上級コースと、のこぎりを用いて行う入門コースに分かれて行い、当署は入門コースの指導を担当しました。ヒノキ林で行ったため枝が張っており木を倒すのがなかなか難しかったですが、班ごとに協力し、各班5本程度の木を伐り倒すことができました。



ベンチ作り

午後からは、各種体験プログラム(森林ガイドウォーク、木工体験、ベンチ作り)に分かれ、参加者の方々に楽しんで頂きました。当署は「間伐した材を活用することの大切さを伝えることができれば」との思いから、瀬尻国有林で伐採されたヒノキ間伐材を用いたベンチ作りを実施しました。

丸太をのこぎりで切って、皮むきをし、かすがいを打ちこんでベンチを組み立てるという一連の作業を体験していただきました。



完成したベンチ

完成したベンチと記念撮影。家族→で協力して物を作るという体験もなかなかよいですね。



←ベンチ作りの様子。各グループごとに一つのベンチを作成しました。



展示林見学 森の恵み食体験

昼には「森の恵み食体験」として、猪肉を使ったあたたかい「猪汁」に舌鼓を打ちました。



また、希望者にはスギ展示林を案内しました。参加者は明治時代に植林した約120年生の大きなスギを眺めながら、当署瀬尻森林官の話に耳を傾けていました。



記念植樹 記念撮影

参加者やみどりの少年団の子供達と一緒に記念植樹を行ないました。イロハモミジ・エゴノキ・ヤマボウシの三種類の苗木を植えました。



最後に、参加者全員で記念撮影をしイベントを終了しました。

